



鹿児島県 児童クラブ連絡協議会

連絡先

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久 2105-1

TEL/FAX 0995-45-7800

<http://www.synapse.ne.jp/~aunion/krijidouren-index.htm>



携帯サイトです。ブックマークに登録を！

ニュース

No. 13

2009年6月18日

県連第3回総会&かごしま「学童保育」シンポジウム

100名を超える指導員・保護者等の参加をいただき、元気のでるシンポジウムとなりました。ご参加をいただきありがとうございました。
総会&シンポジウムの報告特集号です。

基調講演：真田 祐さん（全国学童保育連絡会）

◆学童が法制化されて10年で施設数は1.8倍、児童数は2.4倍に。でも、低学年の親の6割が働いているが、学童に通っているのは3割。

▼子どもたちは、学童で年間1650時間過ごしている。（学校では1100時間）放課後の子どもたちの生活を守る場所が学童保育であると強調。

●仕事と子育てで支援で国は、これから10年間で学童を3倍に！（指導員数20万人、学童保育数5万カ所に）

課題は、財源の確保と常勤指導員の配置、資格制度と養成機関の育成が必要だ。

★学童保育は、一人ひとりが大切にされる施設。働きながら子育てする親たちの切実な願いで、誕生し広がってきた。

▲2009年は法制化以来の転換期、1～2年が山場だ。保護者と指導員が力を合わせ、行政がそれをサポート（ハード面等）していくシステムづくりを！

6/7(日)かごしまの「学童保育を考える」／鹿児島市「マリンパレスかごしま」

◇障害児学童ステップ・花木正斉さん（指導員）

常勤勤務への不安（賃金面等）があるが、指導員の質の向上と親とのコミュニケーションをはかっていきたい。

□根占学童ひまわりクラブ・中村雅之さん（設置者）

平成11年から24時間、どっぷり学童につかっている。小規模学童への配慮を。これからの10年間どうすればいいか不安だ。

▽県青少年男女共同参画課・藤後竜也さん（行政）

学童の窓口が「子ども課」から男女共同参画課に変わった。鹿児島の学童の課題は、場所・人材の確保、制度上の弱さ、財政面の弱さがある。ハード面での行政への働きかけを強めて！

☆南日本新聞編集委員・岩松マミさん（マスコミ）

学童保育に対する世間の認知度は低い。自治体格差が広がり、意識のさもある。どこに生まれたかで差が出てはいけけない。子どもの成長を助ける場、もう一つの地域を作ることが学童だ。

◎鹿屋市・板山智典さん（保護者）

保育料等で預けたくても預けられない家庭もある。ハード面は行政と指導員で、ソフト面は保護者と指導員のコミュニケーション（会話が持てる状況）により作ることが必要。

○真田祐さん・コメント

子どもを幸せにするサイクル＝制度⇔現場の実践⇔運動・取り組み＝声をあげ働きかけにより制度を変えていく。



**親と指導員が
学童保育議論**
鹿児島市

子育ての両立支援策として、学童保育の拡充へ国も動き出した。しかし常勤指導員の配置や資格制度など課題は多い。親と指導員が力を合わせた取り組みが大切」と話し、シンポジウムでは、指導員や行政担当者、保護者らがパネリストを務めた。伊佐市の障害児学童クラブスタッフ

ブの指導員・花木正斉さんは「子供たちは地域活動に挑戦し、得意なところを見つけて」と紹介。根占学童ひまわりクラブの設置者中村雅之さんは「大規模施設が問題になりがちだが、過疎化が進む鹿児島では小規模で大切な所も多い」と指摘した。

県青少年男女共同参画課の藤後竜也も少子化対策係長は「指導員の処遇や厳しい財政など理解しており、行政へ働きかけてほしい」と語り、鹿屋市の保護者は「保育料が負担で預けられない親もいる」と訴えた。

40人超4割、大規模化解消進まず

鹿児島県内の学童保育（放課後児童クラブ）は、私立保育所併設の80カ所、施設数は288カ所、児童数は1万2477人だった。形をみると、民間への運営委託施設、法人への委託施設の順に多く、公営施設は10カ所、民間施設は80カ所、家庭内施設は12カ所あった。児童の学年は1～3年が9割だが、4～6年も913人いる。

「学童保育」 民間に依存

鹿児島県連協調査

私立保育所併設 80カ所

調査では5月時点で学童保育実施する75自治体が回答。学童保育の総数は288カ所、児童数は1万2477人だった。形をみると、民間への運営委託施設、法人への委託施設の順に多く、公営施設は10カ所、民間施設は80カ所、家庭内施設は12カ所あった。児童の学年は1～3年が9割だが、4～6年も913人いる。

きょうシンポジウム
鹿児島県連協は、調査を踏まえ、7月後半頃から鹿児島市のマリンパレスかごしまで「学童保育を考える」シンポジウムを開く。

総会参加＝加盟クラブ23クラブ55名、シンポジウム＝23＋未加入クラブ25クラブ37名、市県議3名、パネラー含めて102名の皆さんの参加をいただきました。鹿児島でのこれからの「学童保育」の一步を踏み出すことができたのではないのでしょうか。さらに「あってよかった県連絡会」をめざして、地道に歩んでいきたいと心新たにしています。（T）

終了間際にシンポジウムの感想・意見を急遽お願いしたら、55 名の方から、感想をいただきました。真田さんの基調講演やシンポジウムでのパネラーの方々の学童に関わる思いやご指摘等、元気をもらったという感想がほとんどです。様々な視点から問題提起をいただき、改めて学童に対する心構えや、初心に返ったりとボリュームのある感想文です。

- ・20・30 年へて変わっていく制度、今にいたっていると思います。今後の改善は、指導員・親との連携で、子どもたちにより環境として返っていくものと思います。
- ・一人ひとりが大切にされる学童保育、親と指導員がいっしょに子育てする施設の基本を大事に、親とのコミュニケーションを大事に子どもの成長に関わっていききたいです。
- ・障がい児を預かる方、障がい児を預ける方、障がい児に生まれて預けたくても預けられない。立場を変えてみれば、まだまだお互いが理解し合わなければならない。
お金で子どもを預ける、お金で済むようなことをしていないか？
- ・鹿児島県の指導員の謝金は、何年働いても時給が上がらず、新米の私と 17 年勤務の主任とが同じ時給になっています。また、働いた時間を計算して、謝金が行政からくるのではなく年間の謝金をまる投げされて支払われるため、子どもたちの人数にかかわらず、指導員の数を減らさなければならず、指導員の精神的、肉体的苦痛が大きくなっているように感じます。
- ・今日のシンポジウムは、現場の人間としてはとってもうれしい話でした。
- ・指導員の仕事の大切さ、難しさを再確認し、勉強させられました。
- ・職員の待遇、学童運営の進め方など、まずは経営者に現場の声として、どんどん挙げていきたいと思います。
- ・障がい児の父の板山さんの意見には、指導員として心に痛く受け止めることができました。
ハード面は、どうにかなるけれど、ソフト面は指導員に問われることだけに…。これからの学童保育の日々に生かしていきたいと思いました。
- ・保護者として、運営にどこまで声を出していいのか分からない。
(1 年～3 年で卒業していくため)
- ・行政の力も大切ですが、まずは子どもと保護者の方々と信頼感を密にしていきたいと思います。
- ・質を上げることの難しさを実感しています。子どもたちの未来が変わるよう、みんなで頑張れたらと思います。
- ・子どもたちにとって安心・安全な居場所であるようにと願い、日々勤務しています(つもり)が、毎日毎日自己課題(反省)の日々です。
- ・指導員は、保護者、子どもの要であると子どもが安らげる場づくりに頑張りたいと思いました。
- ・同僚の指導員と話し合いながらの毎日ですので、みんなの力で乗り越えていきます。みんなで明るい未来をつくらせていけたらよいですね。
- ・指導員は、クラブの児童だけを指導するだけでなく、保育士と同じ仕事以上の雑務があります。今日の話聞き、自分の仕事にほこりを持ちたいと思います。
- ・初めて参加して自分の仕事にほこりと自信をもらいました。
- ・明日から、またがんばろうという元気をもらいました。
- ・日々を大切に子どもの幸せのために努力させていただきます。
- ・どうしても保護者が、指導員の方におんぶされっぱなしだと思います。回数が少ない会の中で、指導員、保護者の意見交換など積み重ねていけば、もっと連携がとれるのではないかと思います。
- ・とても良い勉強になりました。これからの課題として、学ぶ事も多かったです。自分のできることを明日からしていきたいと思います。
- ・3 年目の学童保育ですが、保護者とももっと連携が深められるようにがんばっていききたいと思います。何事も自分を磨かなければ… 子どもの笑顔を求めてがんばります。
- ・すっごく勉強になりました。今まで三回出席していますけど、今年は良い話になったと思います。
- ・県下の学童白書づくりを！！(行政も数値云々を行っていることもあり…) まず実態の正確な把握を！
岩松さん、よくぞズバリと言ってくれました。
板山さんのことばには、胸をうたれました。
中村さん がんばり続けてください。2 世、3 世もぜひ、でも行政が個人(善意)まかせではいけませんね！
- ・自分の置かれている指導員という立場に関して、いままで以上に子どもたちに対しての接し方、また保護者の方々と密に連携をはかることが改めて大事なことだと感じました。
- ・国の方針など難しい話はなかなかわかりづらいのですが、今日は「そうなのか～」とびっくりするようなことも聞けて、勉強になりました。
- ・普段、疑問に思うことなどがすこしクリアになり、課題がずいぶん明確になりました。
- ・ここ 10 年間で、ものすごく変わってきた学童保育があと 10 年後にはクラブ数も増えるだろうし、指導員数も 20 万に増えることになると思う。聞いたなら、すごくうれしくなるし、そうならないといけないと思う。
- ・学童保育の課題、今後どうしていくかなど知ることができて良かったです。
- ・まだ学童に携わって 1 ヶ月。今は子どもたちに慣れてもらうので精一杯で、行政とのつながりと分からないのですが、真田さんの行政と現場と運動の関係の話は聞いていたとても分かりやすかったです。
- ・ローテーション勤務である私たち、子どもたちはどう思っているのか、今日もまた違う先生「なんで？」と言われる。子どもたちにとって、毎日、違う先生、子どもたちの気持ちはどうあるんでしょうか？ これでよいのでしょうか？
- ・岩松さんの話、学童は「きちんとした理念をかかげ、地道に歩んでいくこと」また、指導員の花木さんの「指導員の質が大切」とつくづく思いました。
- ・「子どもたちの育ち」を重視した学童クラブつくることが、指導員に求められている知ることができました。
- ・パネラーの皆さんの発言がとても新鮮でした。日常の指導員同士でも話し合えないことを言ってくださったりして、私自身が「そう、そう」とうなずくことも多いでした。また、保護者の立場からのパネラーの意見は、心して聞いてしまいました。
- ・学童保育についてこのような会(協議会)があることは、指導員としてとても勉強になります。
- ・学童保育の奥の深さを知り、おのおの理念を持ってコツコツと歩んでいくことの大切さなど考えさせられる事が多かったです。
- ・ディスカッションでは、学童に関わる人の普通ではあまり聞けない立場のお話がとても良かったです。
- ・ハード面は行政が頑張れ！！ 親御さんとの会話は、にこやかに「〇〇でした」良いことも困ったことも「ヨロシクお願いします」「ハイ分かりました」で、なごやかに。基本は「安全指導と楽しく親の迎えを待てること」 難しいことは設置者 ガンバレ！
- ・指導員の給与の面を考えたことに心から感謝致しました。
- ・指導員と保護者の連携とかコミュニケーションをとることが大切だと実感しました。
- ・指導員として質を高め、ひとりの人間としても成長していきたいです。現場に帰って、今日の会に参加して得たことを心の支えにしてがんばっていききたいと思います。